

## メキシコ金融政策（2021年2月）

「全会一致」で3会合ぶりに0.25%ポイントの利下げ

2021年2月12日

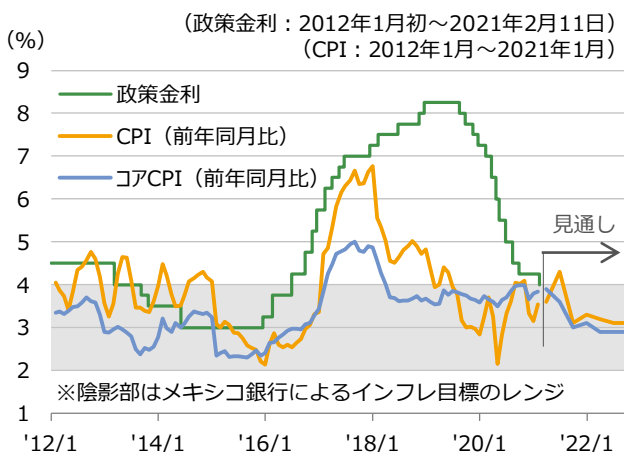
### インフレ動向をにらみながら更なる利下げ余地を探る展開に

メキシコ銀行（中央銀行）は2月11日（現地）、金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利を4.25%から4.00%に引き下げると発表しました。昨年9月まで11会合連続で利下げを実施した後、食料品価格の高騰を主因にインフレ率が目標レンジを上回っていたことなどから、過去2会合は政策金利を据え置いていました。声明文では、経済・物価について得られる情報が金融政策の調整を可能にすると述べた上で、全会一致で利下げを決定したと説明されています。

経済は、昨年末にかけて中銀の予想をわずかに上回るペースで回復したものの、先行きは依然として不確実性が高く、またダウンサイドリスクを伴うとし、需給ギャップ（経済の弛み）が解消されるには相当の時間を要することが示唆されています。インフレ率は、昨年11月時点の予測と同様であり、今年の4-6月期には前年のエネルギー価格下落の反動で一時的に上振れるものの、年後半にかけては目標の3%に向けて低下していくとの見方が示されています。

今会合のサプライズは利下げが「全会一致」で決定されたことです。当社は、従前より今回の利下げサイクルは4%で終了すると見込んでいましたが、これまで利下げに慎重な姿勢を示していた委員も利下げを主張したことで、更なる利下げが実施される可能性が高まったと考えています。もっとも、先行きの不確実性は依然として高いため、インフレ見通しに影響を与える要因として、新型コロナウイルス問題からの経済の回復状況や資源価格、為替市場の動向などを注視していく必要があります。

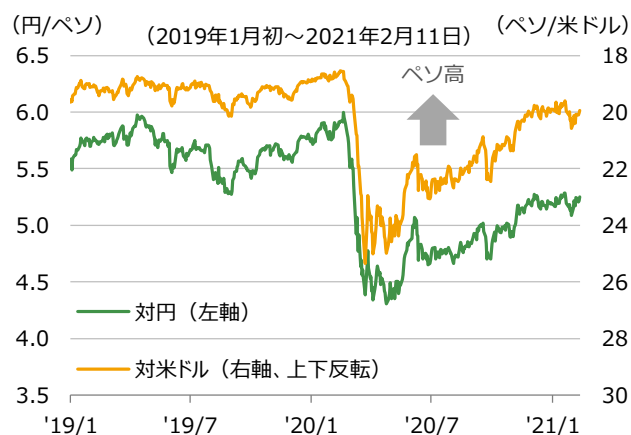
#### メキシコの政策金利とインフレ率



※CPIの見通しはメキシコ銀行の2020年11月時点の見通し  
(2021年1-3月期から2022年7-9月期)

(出所) メキシコ銀行、ブルームバーグ

#### メキシコ・ペソの対円・対米ドルレート



(出所) ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。